

八月十三日（木）親の顔が見たい・畑澤聖悟

教育テレビでの舞台中継番組で劇団昴上演「親の顔が見たい」を見た。「昴」俳優陣の演技に普段のテレビ番組ではみられない新鮮な魅力を感じた。

何年か前に文京区のレストランのマダムのブログにあったのを思い出した。昴の舞台の観劇の帰り道ではいつも「芸術の爽やかな風」が吹いている。そのブログを読んだ為なのか昴の舞台の「爽やかな芸術の風」がテレビの前の私に芸術の風を想起させるのであった。

この戯曲、晩成書房刊行を読んだ。名門女子中学で一人の生徒がいじめられ、遺書を何通も遺して自殺した。遺書を巡って親達や学校関係者が責任逃れの醜い行動に出る。遺書によりいじめの実体が次第に明らかになる。

いじめグループは女子中学生をトイレに連れて行き、裸体にした姿を携帯電話で写真に撮り援助交際を強要して、売春で得た金を皆で巻き上げる。私はいじめの悪質さに驚いた。中学生の知恵の及ぶレベルでは無いと思っただ。ここで売春と書いたが売春と書けば、それだけでアナログ、時代錯誤のレッテルを貼られる事であろう。

ところが著者のあとがきによれば、初演を見た客が「現実はこのままじゃすまないで

すよ」都内の中学教師が感想を述べたという。いじめの実体はもっと巧妙かつ悪質になっているのである。

同級生である女子中学生が自殺しても加害生徒の様子は普段通りで罪の意識が全くみられない。この罪の意識が無いのは加害生徒の親達も同じである。

この戯曲作者は高校の教師であるらしく教職の立場から生徒を観察して、いじめの実体を描いているのであるが著者のあとがきによれば福岡県での実際に起こった事件をモデルにしているらしい。

女子中学生、携帯電話、援助交際、いじめ等今日的な題材を現代日常語で扱うと文体は自ずから消失して仕舞うのであろうか。

文体の喪失を思うと寒々とした気分になる。いまどきの小説はプロットとキャラクターしか書いていない、らしい。文体の喪失を問題にしないと現在や現代は語れないと信じ込んでいる私は環境不適應者なのかも知れない。と、此処で居直っても何も出てきません。

七月十三日（月） 民主党の圧勝

前回、ここに書き込んだ前夜にはビートたけしと東国原知事が会食したと昨日のニュースで知りました。東国原の自民党進出撤退への段取りと謂うところか。

昨日東京都議会選挙に投票しに行くとき会場  
で「こんにちは」挨拶を選挙係員数人から受  
けた。驚きつつ、とにかく挨拶を返しました  
が投票会場では厳粛に私語を挟まずに厳かに  
行われるものであったので選挙会場まで「ハ  
レ」の舞台でなくなつて、一般日常の延長上  
の空間になつたのでしうか。

やはり敬語は必要だ、皇室関係のニュース  
で敬語と日常語を交えて（故意に交えている  
のであろう）チャンポンで伝えているのには  
虫酸が走ります。敬語を一度でも、一カ所で  
も用いれば全文を敬語で貫かなければそれは  
日本語と言えない。敬語が無いと緊張が失せ  
てだらけた日常しかやって来ない。選挙投票  
でも日常生活ではないのであるから区切る必  
要がありはしまいか。

単純に挨拶は悪い事では無いとの善意で発  
したのであろうが、厳粛な時と空間が欲しい  
のです。

街頭での民主党候補者の演説に腹が立ち、あ  
れば、石を投げようとしたがなにせ最近の道  
路には石が落ちていない。演説の中身である  
が、単純思考で東京都新銀行が四百億円もの  
税金を無駄に使つたと知事を税金泥棒呼ばわ  
りをしていた。中小零細企業の資金繰りに使  
われたとは言わず、新銀行発足時には民主党  
は賛成していたのに一転して、泥棒呼ばわり  
をした結果、当選するのだから民主党候補で

あれば誰でも当選する勢いである。有権者の損得感情に訴えれば選挙に勝てる、内閣であれば給付金を支給すれば、一時であるが支持率も増える。そういった世相に対して情けない思いでいる。

七月十一日（土） 黒幕はたけし

世論調査なるものが信用を得て、政治家が公の席で内閣支持率は何パーセントなどと言っている。これはマスコミ各社への配慮というものではないだろうか。

公明党や共産党の支持者は世論調査にはすんで協力するであろうが、例えば、選挙投票未定の中間不確実層は調査に協力を惜しむであろう。公明党の支持者は三パーセント程度だそうだが支持母体の創価学会の信者数が成人の三パーセントも存在するであろうか。実際は一パーセントも居ないであろう。アンケート形式によって数字結果は操作出来るのである。すなわちマスコミが権力を持ち、政治操作可能な状態にあるのです。

東国原宮崎県知事が衆議院選挙に自民党から条件付きで立候補を検討しているらしいが、それこそ世論の風は完全に逆風らしい。このニュースを聞いた瞬間に思い出したのは知事の師匠ビートたけしの動きである。

記憶では三月頃たけしが麻生総理を公邸に訪ねたと思っていた。検索すれば昨年十二月十八日に赤坂の料亭「浅田」で麻生総理と会食とある。おまけに古賀誠選対委員長も同席している。この時に三者で東国原知事の国政参加を打ち合わせたに違いない。根回しというやつでいかにも政治的です。

平成二十一年

六月十二日（金） <http://orange.zero.jp/doi/>へのアドレス変更お願い致します。

このホームページアドレスが自動変更（リンク）にならずプロバイダーの懈怠なのかと思っていました。再度、問い合わせれば来月、七月末で <http://www4.zero.ad.jp/doi/>でのHP表示はされず <http://orange.zero.jp/doi/>でのアドレスのみ表示されます。リンクされている場合は変更をお願い致します。

回答率がせいぜい五十パーセント台にしか過ぎない新聞社やテレビ局の世論調査結果をマスコミ各社はあたかも世論全体であるかの如く過信しているのには首を傾げざるを得ない。回答しなかった人達の意見を集積するのは不可能であるとしても、半数を少し上回るばかりの回答率のアンケート結果に全面的な信頼が置けるとばかりの如く対処するのには数字の誤謬、騙しに配慮していない。

テレビ視聴率も同じであって数百世帯のサンプル収集で一千数百万ある日本国中の全世帯を調べ上げたとは錯覚を起しているようだ。

マスコミ各社世論調査やテレビ視聴率は統計学上信頼性があると統計学者が主張すれば否定する意見が顕れないのが恐ろしい。統計学という「数字の誤謬」を正さねばならないのではないか。

定額給付金申請書を送付したくないのだが権利を放棄するのも癪で申請書を送らざるを得ないであろうと苦々しい思いでいます。麻生総理が当初、給付を受ける人は「さもない」と、のたまわっていた。尤も、高額所得者なのに給付金を受け取る様なさもない人は、と、ただし書きが付いていました。しかし、給付金の発想自体が国民を見下したものである。その定額給付金が支給され始めた頃から麻生内閣の支持率が向上したのには呆れました。

民主党代表であった小沢一郎が代表を降りたのは世論調査の結果、小沢代表では衆議院選挙を戦えないと判断したからである。

テレビの視聴率も信用おけない、石原知事は会見でビデオリサーチの調査は六十歳以上は勘定に入れてないと述べていた、何年か前の話であるから今は変更されたのかも知れない。いまは団塊の世代が控えているので六十

歳以上を無視出来ないでしょう。もともと老人は消費購買層に非ず、がテレビ界の見解であつたのでしよう。年長者の視聴を想定せず番組制作を行った結果、番組が詰まらなく、下らなく、止めどなく下品になつたのです。

今のテレビ制作者は創造力の乏しい事は万人の認めるところでしよう。テレビ放送の性質からして映す対象を定め、映像化しさえすれば番組として成立する。視聴者の感銘度は無視される。番組制作に創造力は不必要なのであろうが、それにしてもつまらない番組ばかりである。番組制作の発想が人々の欲望を刺激して好奇心を煽り、視聴率が上がさえすれば全て良い世界なのである。

そんな内で劇団「昴」公演「親の顔が見たい」は感心しました。しかし、演出を青年座の演出家に依頼したのは戴けません。インタビューでこの劇は学校という普遍的な場で、云々述べていましたが普遍性という言葉を用いれば観客を納得させられるとも思っているのでしょうか。あの劇での普遍性は親のエゴイズムにあります。学校は共通の場であります。

九月十七日（水）自動的に移動せず

URLが自動的に変更にならず、新旧二つのURLで表示されているようです。プロバクターの都合に振り回されています。おまけにカウンターが準備されておらず近く取り付

ける予定です。カウンターの場合で正常に作動しているか判明するでしょう。

ジョルジュ・ルオーのよく知られたエピソードとして未成品の返却訴訟があります。ルオーにすれば、ほとんどの作品は未成品であり、未成品を書き加えて完成品にするつもりでいたのが、画商によって未成品が売られればそれは不本意であつたらう。判決は八百点をルオーに返却とあり、執行官立ち会いの下に全て焼却している。

未完成作品の焼却にルオーの芸術家としての誠実を見るのか、それとも焼却処分せずに完成品にまで仕上げるのが画家としての仕事であつたのか。十四歳でステンドグラス職人のダモニに弟子入りしたルオーに職人気質が身についており芸術家としての気負いは見られません。

キリスト教は靈的なものを否定しているのに係わらず、ルオーには靈的なインスピレーションが湧いたらしいのでその角度から理解するのも一興でしょう。

九月五日（金）URLが変更になりました

プロバイダーの都合で当頁のアドレスが変更になりました。別のプロバイダーに代えようかと迷っている間にも月日は経ってゆきま

す。  
先月末の集中豪雨は凄まじく轟音の雨音は

初めてです。本州では大雨なのに四国ではダムの貯水量が底をについて困っているようです。なんと不平等な事か。

先月、十七日に終わりましたが日比谷の出光美術館にてジョルジュ・ルオー大回顧展が開かれていました。館内に入った瞬間にルオーのパワーに圧倒されました。精神の「勁さ」が我々を別の次元に誘いました。最終の金曜日は夜七時まで美術館は開いていたので案外大勢の人が押し寄せました。

キリストの『受難』をテーマにした連作油彩画八十四点のうち六十四点が出光美術館に所蔵されていて、今回は全てが展示されました。出光が受難を収めるに際しては多くの作家や画家の後押しのおかげであつたようです。

これは驚嘆すべきなのか。受難の何点かにキリストの頭の周りにオーラが描かれています。色は黄緑であり、十字架のキリスト二枚には橙色のオーラが描かれていた。昔の人はオーラが見えていたという話は眉唾ものだと思っていたらジョルジュ・ルオーにはオーラが見えていたのであります。

オーラが見えるか見えざるかは重大事では無く、ルオーが多彩に表現したものを受け止めるのに苦心しました。

一度の鑑賞のみでは何も身に付かないと観念して出光美術館をあとにしました。

六月二十八日（土） アンポ反対

米国が北朝鮮をテロ支援国家指定解除の手続きの方向へ向かっているのに、政府が拉致被害者救出に何ら手を尽くさなかった如く見えるのは万人の感じるところでありましょう。拉致問題は今後も日米で協議するので今後を期待しましょう。との意見を持つ人は誰もいないでしょう。

米国は日本を見捨てたのであろう。

これでは日米安保を破棄せざるを得ない。自衛隊は軍隊として武力行使を行い。拉致被害者を奪還するしか方法が無い様に思われま

す。  
その前に北朝鮮は核兵器を日本に落とすに違いない。ブッシュは何を考えているのであろうか。悲観的な見方しか今の所は出来ません。

日本は米国の属国どころか奴隷国に成り下がったようだ。

話題を代えて、裁判員制度実施を前にしておかしな判決が続きます。肉親を殺害した者が裁判で無罪になるケースが増えている。判決理由として犯行当時は心神喪失であったのが理由だそうだが本当に心神喪失であったなら殺害行為自体が成り立たないのではないか。

裁判官のヒューマニズムとやらが温情判決を導いているようだ。日本は腐りつづけている。

六月九日（月） 人はパンのみにて

こんなに永くサボっていると書き込まないのが苦痛になりました。この間一体何をしていたのかと申しますと趣味でカラオケの伴奏で歌っていました。今年の夏から始めました。

このカラオケは伴奏キーの上げ下げのコントロールとテンポを速くしたり遅くしたり個人に合わせてくれるのです。月に五百円と税が必要でパソコンにダウンロードします。

曲目が昭和四十四年から以前の曲はほとんど入っておらず、すなわち歌える曲の大方は歌えない状況であり、しかもアレンジと呼べない程手抜きアレンジなのにキーを合わせられるという利便性が私を虜にしました。

「是れで良いのか日本の歌」も尻切れ蜻蛉状態ですので若干題を代えて加えて行きたいと考えています。

冷静に考えるとカラオケは自己陶醉と自画自賛でしかありません。これを読んで下さる方には迷惑な書き込みとなるでしょうから、不快に思われる方はこの頁を無視される事、お願い致します。

前回書き込みました青色発光ダイオードを自室で灯せば雰囲気が変わるので無いかと思いい立ち常夜灯と小さなランプを灯してみました。いずれもワット数が少ない為効果の程は明確では有りません。悪い感じはしませんからランプを増やせば幻想的になるのではしよ

う。

先月二十五日の産経新聞オピニオン欄に福田先生の「腹が立つ節約美德論」が再掲載されていました。昭和四十八年の論文でオイルショックの混乱に冷静になれとの警告が今日にも当てはまるとの見解で再録したのであります。『人はパンのみにて生きるものではないと悟ればいいのである。』

三月十二日（水） 青色発光ダイオード

片隅にあったウェブニュースを紹介します。JR西日本では、大阪の阪和線と関西線の三十二踏み切りを鉄道自殺が年間四件から九件発生する要注意踏み切りと判断し、踏み切りの照明を青色発光ダイオードに代えたら、効果てきめん。この一年間自殺者が出なかった。

青色は精神を落ち着かせる効果があるときれ、英国グラスゴー市では青色発光ダイオードを景観改善の為導入したところ、犯罪件数が激減した。わが国でも平成十七年に奈良県で初めて導入。現在では広島、静岡、石川などの自治体に普及しているようです。

記事では青色照明灯の鎮静効果を記述しているのみで、青色発光ダイオードによる鎮静効果なのかそれとも照明灯の色が青であれば効果を齎すのか、判明しません。

青色発光ダイオードの発明が人間の精神にも好影響を及ぼすなら思いの他の発明といえ

ましよう。

右の記事紹介は私とは何の関係もありませんので記述を止めようかと迷い続けました。

この「雑感」の意味を確認できない日々であります。最近では自分のブログにサイパン旅行に行くと掲載したが故に現地逮捕された疑惑の銃弾野郎がいました。ネット上の言葉と自分との距離測定が難しいです。

平成二十年 戊子 一月七日（月）

謹賀新年 明けまして御目出度うございます。今年も新年早々から天候に恵まれました。

元旦に電車に乗り車中見渡すと、晴れ着姿は見当たらず、誰も彼も晴々とした表情をしておりません。沈鬱な顔でも無く、のんびんだらりとした、平凡な日常の延長に過ぎない人達ばかりでした。

これは偶然に車中で眼にした光景なのですが近未来的風景でありました。

祭日とその儀式は生の充実感を得る為の型では無くなって、単なるレクリエーションの日々と化してしまいました。

サラリーマンは暮れから年始に掛けて九連休の人もいるようです。何と永い連休な事か。今日は皆さん、家族サービスとレクリエーション疲れの果ての正月明けの初出勤となるのでしよう。

或る解剖学者によれば、胎児の心臓をばらばらにして細胞一個にすると、あるときからひとりでに拍動を始めるそうです。その自発性が生じる源を科学では解明出来ないようです。生物は細胞の連携で生きているので、細胞一つでは動く筈は無いのです。「これは最も良く出来たシステムで動いている」と学者は説明するのですが定義になっていないと自覚しての説明なのである。

それでは、「魂」で胎児の細胞が動いていると結論を急ぎたくなるものです。

最近制作された「万能細胞」でクローン人間が出来るようだ。クローン人間が出来れば「魂」の実体が解明されるかも知れない。しかし、解明されなければクローン人間すなわち「悪魔」の誕生になるのである。うから深刻な問題であります。人類滅亡の切っ掛けはこの辺りに有るのかも知れません。

十二月十二日（水）舛添も無能だったのか

安倍前総理が高尾山に登り健康の快復をアピールしたようだ。参議院選挙での大敗が病気の原因と見なせば、急性のそれであった事になり元気になられたのであれば喜ぶたい。

昨日のニュースでは年金記録漏れについて、安倍内閣以来の約束であった「最後の一

人、一円まで記録を統合する」と選挙公約していたのに来年の三月末を待たず、白旗を揚げてしまった。舛添厚生労働大臣は記録の不備について「是れ程ひどいとは思わなかった」述べている。持ち主の分からぬ年金が二千万件近くもある。

社会保険庁の職員で年金を着服した者に対して七年という時効の壁があり追求できない。そうだが国会は立法府なのであるから、時効の壁など全党一致して撤去の法案を成立せしめれば年金問題は一步、前進するのは子供でも分かる理屈なのに、国会議員達は仕事をやる気が無いらしい。

見渡せば花も紅葉もなかりけり

浦の苫屋の秋の夕暮れ

藤原定家の歌が身に沁みます。

九月二十六日（水）

安倍前総理の衰弱ぶりに驚かれた向きも多かったようだ。あの病気の進行時は幾ら休んでも疲れが溜まる一方で快復の兆しが見えず、本人に焦りが生ずるようだ。安倍さんは総理として、松岡大臣を自殺に追い込んだとの自責の念が病の発症の原因であろう。

現職の総理が大臣をそこまで追い詰めた例は過去には無く、マスコミをはじめ余人には窺い知れぬ苦悩を安倍さんは抱えていたのであろう。

中秋の名月はくつきりと冴えていた。この月を来年も見られるのかと不安がよぎったがこの感傷癖は何時までも直らないようだ。

二十五年近く前であろうか、千駄ヶ谷の東京都プールに通っていた。全面改築で四年近く休館する旨の告示を読んだ瞬間、自分は改築完成時には死んでいると感じたものだ。しかし、今、別のプールで腰痛のリハビリの為に泳ぎ続けている。自分の予感に不審を覚えた最初であった。

そういった感覚は不安から生じるもので、不安感が脳にダメージを与えるようです。脳の未解明なところは不安感の解消にあるでしょう。

九月二十二日（土）「どうにもならない」

「より大いなるもの」についてここに書くのは躊躇せざるを得ません。特別な書く機会が有ればそう致しましょう。明け透けな書き方は私の趣味に合いません。

安倍総理の突然の辞任には驚かされました。会見で辞任理由が解りました。安倍さんは「うつ病」であると。サラリーマンの入社拒否症は出勤前に神経性の下痢で何度もトイレに走り、本人の意志に反して会社に行けない症状であるが、総理も同じであろう。

ここまで書いて、東京MXテレビ「いい放題」スイッチを入れた、出演の立川談志によれば談志師匠に安倍総理から電話があり「どうにもならない」と述べたようだ。私がテレビスイッチを入れたタイミングが三十秒程開始から遅れたので総理からの電話の時期は定かではありません。

談志師匠はうつ病なので師匠なら解ってくれるであろうと同病合い哀れむ心情で安倍総理は電話したのであろう。

雅子様同様、快復には時間がかかりそうだ。総理を非難するのは簡単だ、会見で病気を退任理由にしなかった総理を罵倒する連中の無神経さが腹立たしい。福田康夫が今度総理になればその姓を呼ぶのさえおこがましくなるが、媚中の康夫ではねえ。

七月九日 より大いなるものの存在

数日前日本テレビのインタビューに安倍総理が答え、社会保険庁の未納給付金問題の解決にあたって消費税率を見直す必要があると。従来から自民党を中心として消費税率の見直しをマスメディアに働きかけていたではないか。それは社会保険庁の詐欺まがい行為の以前から叫ばれていた。ならば今度の問題が発生したので消費税率を急遽大幅に上げるとでも画策しているのであろうか。

余りにも無計画、無節操なその場限りの言い

分に安倍さん貴方も政治家失格なのかとガツカリした。

「私の幸福論」では現代かな遣いに変更してあるが福田先生の人間観がすなおな形で書いてあり恆存は難しいとの見方を一掃してくれるでありましょう。

最終章は「快樂と幸福」で『自分や人間を超える、より大いなるもの』を信じる大切さを説いています。特定の宗教に帰依できなくとも大いなるものへの信仰は普遍的な心情ではないかと述べています。

これからはより大いなるものの存在について書きたいのであるが躊躇する気持ちも大である。テレビ「オーラの泉」について書いても賛同を得ないのは確かであろう。なにも賛同を得る為に書いているのではありませんが。

六月十三日

ほのかな悩みがある。現代小説が読めないのである。例えばケータイであるとかコンビ二等の今風の単語が活字となっていれば、たちまち拒否反応を起こし本を閉じて仕舞う。これも不適應症状の一種と断定すれば思考はそこで停止する。

毎月七日の朝日新聞二ページ目には文芸雑誌四誌の広告が掲載されている。著者名がほとんど分からない。文芸誌には大御所が名を連ねるものとの思い込みから脱つないと現

代の小説は読めない事になる。読めなくとも一向に支障の無い日常だけに少しだけ情けない。

少し無理をして芥川賞受賞作を読み始めても「これば文学でない」との認識が支配するとたちまち読めなくなって仕舞う。「これば文学でない」恐ろしい言葉である。「こいつは偽物である。」この言葉も効力を発揮する。偽物とは文学以外のほとんど全ての分野に当てはまるのであるが、やはり芸術分野で用いるのが妥当であるまいか。かつて岡本太郎というタレントがいたが彼などは偽物の典型と断定する。マスメディアにさえ乗れば商品価値が上がるのである。芸術作品の価値では無くて商品としての価値なのである。

六月十二日

随分書き込みを怠りました。最近のニュースに接しても以前にここで書いたのと同様の意見しか出て参りませんので重複は意味が無いと氣後れて今日まで来しました。

社会保険庁の年金記載漏れ問題を一言で述べると、政治家が役人に遣われ利用され続けていたという事でしょう。現今の政治家で役人を使役できるのは石原都知事只一人しかないと言えます。

近代化の効率を上げる為の高級公務員制度が破綻をきたしているのにそれを放置して来た政治家や国民の責任は重大とも言えます。政界再編が指向されているようですが、

公務員制度の改革を基準にしての政界再編を目指すのが真の改革のような気がします。国が腐れば役人も民も根っこから腐りました。

我が日本はたまに起こる奇跡と、今だ起こらない関東大震災との狭間で辛うじて命脈を保っているかのようです。

耐震偽装建築疑惑うやむやの内に幕が引かれてしまいました。正解（欠陥建築の総体量）は大震災後に解るのでしよう。

地球温暖化問題では中国や米国の国家エゴイズムに対処する術が見当たらないのはこれもお粗末です。近年の温暖化に恐怖心を持たれるのは万人共通でしように。

四月三日 三百人劇場活用法

疾いもので今年も四分の一が過ぎてしまつた。八日は知事選挙だが朝日新聞の石原批判は度が過ぎていゝ。朝日は存亡を賭けて石原落選への世論誘導に懸命だった。読者には免疫になつているのだろうか。世論調査で朝日の購読者の何割が石原へ投票したのか調べてみるとよい。都合の悪い調査は行わないだろうが。

歴史的な知事の石原慎太郎にも失点はある。かのコンテンポラリー・アート支援がそれである。他の芸術分野の発展振興には力を注がなかつたからである。そもそもコンテンポラリー・アートは芸術といえるのか。建築

や室内デザインに寄与しても決して芸術の純粹性を保っていないのである。あれを誰も芸術と認めはしないであろう。

新劇のなかで政治色を排除し、演劇の純粹を追求した劇団は極少数である。三百人劇場を新劇（演劇）発展の為にも東京都が買い取り貸し小屋とする方法もあつたと今になつて地団駄を踏んでいる。

衆議院議員宿舍が完成し総工費三百四十億円という金額に驚く。家賃が相場よりも安いとマスコミは批判しているが耐震偽造しなければ総工費はこんなにも高額になるのか調べた事はいくらかもある。家賃の九万二千円が高いのでは無く、家賃相場が高すぎると批判すべきである。石原批判しかり、宿舍家賃もマスコミは目先の事にだけに目を奪われている。慎太郎の功績を讃えなければ公平を欠くという視点を持たなければマスコミは自滅する。

二月十七日 ON砲

前回更新してすぐに星野仙一がオリンピック野球監督に就任との報道に不愉快な気分になり、長嶋茂雄の気持ちを忖度するに気の毒で仕方がなかった。ようやく今週号の週刊文春に「なんで星野なんだ。なんで俺じゃないんだ、何も途中経過が聞かされてないじゃないか、何のためにここまで努力してきたんだ。何のためのリハビリだったんだー話したと載

っている。読んでいて、涙を禁じ得ない。

王監督の野球人としての品格を讃え、北京での参加を拒否したイチロー選手の判断に賛辞を送りたい。

長嶋選手のホームランは凄かった。レフトの守備位置あたりから二段ロケットのように勢いを増して伸び、スタンドに突き刺さるの  
で観客はよくも怪我をしなかったものだ。王選手  
のそれは角度が一定に高く上がり、ストンと落下したものだ。

ONの凄さを書くに困菊じじい扱いされかねぬ。困菊じじいぶりを発揮するなら本業で話題を変えて、去年の「夏の夜の夢」素晴らしかったです。殊に若手の三組のカップルの演技力とても十年選手とは思えぬ初々しさに驚嘆しました。ここまで書いて、福田先生が遠藤周作の戯曲を読んだ感想を思い出した。「君の作品を読んでかんしんしました。かんしんとは寒い心と読むのですが」お後は宜しいよう。

一月二十三日

宮崎県知事選挙でそのまま東が当選しました。選挙なる民主主義手続きの結果、落選すれば地獄とも化する状態に陥るのを了解済みで政治家を志すのであろうから門外漢が口を挟む余地は無いのかも知れません。しかし、民主主義とは罪なもので選挙や世論調査の結果、人間の命運を決めかねない結果となる事に至らぬのであろうか。世論調査の結果を金

科玉条の如く信用してよいものか、安倍政権の支持率がまた下がりましたと嬉しそうに述べるマスコミには、不信感しか残りません。小泉はマスコミ操作が上手くて安倍は下手であると言っただけでは無いものがあります。

いつぞや、そのまんま東と新宿、紀伊国屋ですれ違った際に私の視線は（目線に非ず）彼の頭部に固定したまま行き過ぎました。すぐ後の番組で、顔を見ずに頭だけ見て通りすぎる奴には腹が立つと話していたのに私も怒りを買う一員であったと気付いた事がありました。不用意な目の動きが禿げ男を傷つけると知ったのであります。

納豆にダイエット効果あるというのがでっち上げ、虚偽の放送であつたらしい。とニュースで知りました。正月以来餅を毎日四個食べ続けたので最高体重になったので、ヨガのあとウォーキングを三十分、合計約二時間で一キロ三百グラムが減りました。その後は計二キロ体重減となりました。私の場合特別かも知れませんがヨガもしくは気功のあとのウォーキングをお試しあれ。

平成十九年一月六日 謹賀新年

明けましておめでとう御座います。穏やかな新年の幕開けに一安心といったところであります。

去年は初夢が正夢となり、私の問題意識はあの世とこの世のはざかいを歩き来する日々でした。あの世への義理立てをこれで果たし

得たのか死んでみないと分かりませんのであやふやなものです。

ホリエモンは初夢で「皆んなに追いかけていている夢を」みたのが今年の正夢となったようです。彼の場合は検察の手が伸びていたのを察知していたでしょうから追いかける夢を見たのでしようが私の場合は環境が逆転する夢でしたので現実化するとは信じられなかったのです。現実の対応に追われて更新が滞りました。

さぼり癖が付いて仕舞い、このページの展望は開けません。今年も宜しくお願い致します。

コンピュータの発達で文明批評が阻害されているのではないか、文明と人間性の関係がいかなる形で成立するのか人間の根本に立ち返って考えてみたいものです。

十二月十三日 いよいよ閉館

前回紹介するとした（古典は現代化の必要ありや）は、全集第六卷四百五十九頁に「言葉の芸術としての演劇」（幕間）（幕切）と共に集録されています。題名が顕すように福田恆存は演劇の重要要素として、言葉の芸術を追求していた。ここでは江戸っ子、福田恆存の啖呵の切れ味が鋭い。

福田先生の美学である、「新劇には美がなければならぬ」美学の一端が書き下ろし（幕切）に「夏の夜の夢」を通じて記されている。

「夏の夜の夢」には唯一人シェイクスピア

によつてしか表現し得なかつた美があると述べている。それは、『微笑に近いもので例えば生まれて間もない赤子が両親の顔を見て初めて示す、影の様に現れては消えて行くはかない無心の笑い』を表現するのが美学にかなうのである。この無心の笑いに雲の旗上げ公演の時は未だ気づいていなかった。ようです。旗上げ公演では気付かなかつたこの『無心の笑い』を読み取る能力が古典の本質を掴み取る能力に他ならないとしている。『無心の笑い』と、ここで引用しても作品が無いのであるから納得させられません。

十月の昴「夏の夜の夢」や「億満長者夫人」の演出者は果たして福田先生の演劇論を読んでいるのか疑わしい。全集第五巻の覚書の末尾を引用します。

私は、四半世紀前「雲」を作つた時の夢をそのまま持ち続けてゐる同じ私である。が、その私はもはや若くはない、このまま一体どれほどの人がついて来てくれるであらうか。

三百人劇場閉鎖にあたって、福田演劇を継承するべきなのかそれとも（愚かな）新しい演劇を目指すのか、現代演劇協会創立声明書と（古典は現代化の必要ありや）を読んで考えて戴きものです。

十一月八日

保坂和志が小島信夫の追悼文を読売新聞に書いていたので、小島さんが亡くなったと知りました。情報が無いので、普段は見る事のない2チャンネル掲示板で小島さんの死を確認しました。先月二十六日肺炎で、享年九十一歳。小島さんの小説は後世読み継がれるであろうに文学も現代社会から必要とされなくなったのであろうか。近年の月刊文藝春秋グラビア頁、「日本の顔」で小島さんの書斎の写真が載っており、福田先生考案の書き物台兼書見台が写っていました。木製で十度の傾斜角度を付けて書き物にも読書にも最適と作り方を詳細に書いておられたが、どこに書いておられたのか覚束ない。同じものを中村光夫の書斎写真でも目にしました。

小島さんの戯曲「一寸先は闇」を昭和四十七年十二月に劇団「雲」日経ホールで上演したのを拝見しています。ロビーには福田先生、安岡章太郎氏の顔も見えました。この芝居の演出は小島さん自ら担当されたが演劇上の成果は挙がらなかつたと思われました。中村伸郎の凛と響くセリフが印象に強く残っています。

上演パンフレットに「幕間」を福田先生が「古典の現代化は必要か」について書いておられるので次回は紹介するつもりですが「せりふと動き」もしくは全集に転載されていると思われるので調べてからに致します。

十月四日 いつの世も淡谷の批評が必要

小林秀雄の一文で、江利チエミの日本語の発音は確かなものだ。を読んで彼女の歌を聞く機会を伺っています。が流れるのは「テネシー・ワルツ」ばかりではなんとも判定の仕様がありません。「酒場にて」はなじんで覚えていますが、この歌は惨めだったらしくて聞く気になりません。江利チエミ物語を上演中で、島田歌穂がテネシー・ワルツを歌っていましたが良くない。一つの科白は一つの想念で成り立っているように、歌も同じです。歌唱に於いても作曲の想念を捉えて歌わなければなりません。そうでなければ歌がバラバラになりただ声を出しているだけ、ただ歌っているだけとなります。楽曲の想念を確実に捉えると、有機的必然性を感じて、その曲に於いての基本（ベース）となる声の発見があります。小林の一文から外れましたが、期待とはうらはらに余りに酷い歌唱が跋扈しています。

高音を出すのは苦しいからと裏声を用いてはいけない。など最低限の常識が守られていません。淡谷のり子自身の歌唱評価は別にしないで、彼女の辛口批評が懐かしくもあります。有線で流れる今様の歌に殺意を催す毎日なので、これでは身が持たないと悲鳴を挙げている次第です。

八月二十五日 アポカリプスに還る

怠け癖が付いて、長く休んで仕舞いました。本日書き込まねば踏ん切りが付きません。

小林秀雄が入江隆則にパーティで「入江君不思議だねえ。人間というものは、おぎやあと生まれたその場所に、最後は必ず帰るんだよ。」入江氏は小林がなぜこんなことを言ったのか、分からない。と記している。この分からないのは分からない。小林との会話で、入江は小林に、いまロレンス論を書いていると告げていて小林の「ああ、それでは福田君だな」を真に聞いていないから分からないのである。これ以上書くと悪口になるので控えます。

早稲田実業の斉藤佑樹投手の超人的なスタミナに驚きました。ニューヒーローの誕生は野球界の為に歓迎すべきであります。斉藤投手をテレビ観て、ひさかたぶりに日本人らしい顔に出会ったと嬉しくなりました。戦後暫くは、彼のように凛々しさと優しさを併せ持つ日本の男が随分多くいました。その後、日本人の顔は押し並べて卑しくなりました。何故こんな国籍不明な顔の人種に成り下がったのか、若者達は特に、三国人なのか日本人なのか見分けが付きません。若者流行のポップスから日本語を駆逐したのも一因でしょう。全ては敗戦に帰するのでしょうが、敗戦記念日を終戦記念日に置き換えたのは・・・長くなるので止めます。

今夜は家族揃ってカレーライスを食しましたよ。

七月五日

テポドンと危機感

北朝鮮から我が国への弾道ミサイル発射準備報道に危惧や期待していたら、今朝六発が発射されたらしい。

政府は早速、万景峰号の入港を半年間禁止にしたが、何故、乗員を降ろして万景峰号を沈めないのか。経済制裁も行うのだろうか、故ミサイルの準備段階で制裁を発動しなかったであろうか。実際に発射すれば、制裁を一層強力に進める絶好の機会であったのに、なんと周辺諸国に対して、甘く優しい政府である事か。これでは拉致被害者を帰国させる気概が無いと判断せざるを得ません。

役人天国の国にしてしまったのが全ての禍根なのか、日本は危機意識の無い国になって仕舞った。テポドンが命中すれば現実に目覚めるというのか。

先月観劇した「億万長者夫人」作者が企んだ笑いの壺に観客は大いに笑っていました。散文の味わいを堪能し、昴の芝居は安心して観られる事を再確認しました。劇団昴の観客は笑ったが、果して演劇鑑賞団体の客は笑うのであろうか、そこまで現代の観客は成熟しているのでしょうか。観客の成熟を求めるのは早計かもしれない。

六月十一日 懲りないNHK

此処では迂闊な事は書けないと思いつつ里の修行も大切にしなければならず、人に裏切

られて泣いたり喚いたり、ジタバタするのも修行だと前回書いたら、たちまち現実のものとなり、いくら自ら招いた環境にしても、里の修行の下らなさに辟易しています。辟易の内容は通っているスポーツクラブ経営者との軋轢にあります。

筋の通らない事に我慢出来ない性分がスポーツクラブの改革に駆り立てたのですが、目を外に転じて、拉致被害者家族が北朝鮮にいる拉致被害者に短波放送で呼びかける電波が北朝鮮政府筋の妨害電波でかき消されているのをニュースで知りました。

ところで、我らが皆様のNHKは海外に向けて二十二の言語で国際放送「NHKワールド」を放送しています。国語（日本語）での海外向け番組もある筈で、簡単に妨害される短波放送よりNHKの放送で北朝鮮へ向けての横田夫妻達の声を北朝鮮に住む拉致被害者に届けられないものかと思う。放送局側に、北朝鮮を刺激したくないとの政治的判断が働いているとすれば、その政治的判断は誰が如何なる責任に於いて下された判断であるのか、明確にして貰いたいものです。NHKは聴取料を我が国民から徴集して、顔は東アジアに向けての追従番組を放送しているのでは無いか。これはNHK存亡の問題と捉えるべき事柄ではないでしょうか。

五月十八日

遠藤周作の言葉「国のことよりも自分のこ

とだ」で私は独り合点して、納まり返ってしまいました。人間は修行の一生であるとして、修行にも二種類あるようです、山に籠もつてのものと里でのものと。自分で選択すれば俄然、山での修行をえらび少しばかり実践して来たのです。が、「オーラの泉」なる番組で近所のよしみの須藤元気さんへのアドバイスが私の身に沁みました。前世で山での修行は散々行つたのであるから、これからは里の修行をしなさい、人に裏切られて泣いたり喚いたりするのが修行なんですよ。

世俗嫌いの私ですから、元来、聞き流す筈の言葉が江原さんの忠言故に納得しました。霊能者の言葉を信じなくとも小林秀雄の講演での発言なら信じる人も多かろうと思ひ「信ずることと知ること」から孫引き引用します。

今の知識人の中で、一人くらいは、念力と  
いうようなものに対してどういう態度をとる  
のが正しいかを考える人がいてもいいでしょ  
う。ところがいない。彼等にとって、理解出  
来ない声は、みんな不正常なのです。知識人  
は本当に堕落しています。皆おしゃべりばか  
りしていますが、そういうことに対する正しい  
態度がないのですね。

小林の知識人批判は現代も生きていて、茂  
木健一郎はこの講演テープを聴いて（小林は）  
最も近い人になり、同志と勝手に思い込む

ようになったようです。しかし、ここで引用した如く、念力に対しての正しい態度を持ち得ないのも茂木の限界なのだという事を指摘しておきたい。

茂木は言う。経験のうち、計量できないものを、「クオリア」すなわち感覚質と呼ぶ。小林が生きていてクオリアという考え方に接したら、僕が聞いたかったのはそれだよと述べただろうと、茂木は確信しているようだ。

茂木はクオリアが分かればノーベル賞が十個だか百個だか取れると述べていたが、佐藤栄作も大江健三郎もノーベル賞受賞者なのでノーベル賞も大した事はない。クオリアとは計量できない経験の事らしいが、クオリアとは「五感」という言葉で充分です。茂木は第六感を認識出来ないだけの人間です。

彼はクオリアを説明するのは「人間とは何か」を知る事だとも述べていたが、福田先生の著作「芸術とは何か」「人間この劇的なるもの」に茂木の知りたいた事は全て書いてあります。読んでみるべし。

四月二十四日

前回で茂木健一郎の取材が中途半端なのに不満を述べました。茂木氏は著書で霊の存在を信じておらぬと表している、そうであれば何も恐山まで取材に行く必要はない。

遠藤周作のあの世からの言葉「国のことよりも自分のことだ」には含蓄を感じます。まずは西村眞悟氏からこの言葉を肝に銘じて貰

いたい。と、冗談はさておいて、海外で物故作家が霊媒師を通じて作品を仕上げた小説があり、その真贋論争をここで紹介するつもりが、資料が何処へ行ったやら見つけられぬ儘月日が過ぎて仕舞いました。

野球の世界選手権（WBC）で日本が優勝したのは不人気をかこうプロ野球界にとって好材料でした。王貞治監督にスポットが当たったのは嬉しいが長嶋監督が健康であれば世界一の監督の座に就いていたかも知れず、王監督を羨ましくも有りました。

野球人としての立派な品格が王、長嶋にはあるが、星野には無いので、北京オリンピックの指揮はどちらかに執って戴きたいものです。

野球選手に限らず人は成長の糧となる切っ掛けやアドバイスを受けるチャンスが到来するもので、松坂投手にもそれは訪れたとテレビのイチロー選手の言葉で知りました。WB  
C決戦前の練習終了時にイチローが松坂投手に笑顔で語りかけた「貴方は練習するのを舐めているでしょう。君自身、何処かで手抜きをしているのが、僕には分かるよ」この言葉を松坂は如何に受け止めたかは分かりません。

一流が超一流に成長するにはイチローの言葉を真摯に受け止める必要を感じましたが、散漫な松坂には無理な注文かも知れません。

三月十一日

文藝春秋三月号は「小林秀雄の霊が降りてきた」茂木健一郎から読みました。

何故著者は編集者を伴って、遠く青森県の恐山に行ったのかイタコの口寄せに頼ったのか分かりません。イタコなんぞに頼まなくても昨年よしもとばななど対談した江原啓之氏にお願いすれば正確な小林秀雄の声が聞けるではないか、思っていたら週間文春で江原バツシングが始まった。江原氏を、過去に交流のあった五人の証言で信用ダメージを与えようという見え透いた愚劣な記事で、裁判に訴えられれば文春側の敗訴は過去の判例で明瞭です。

週刊誌との関連で月刊誌は江原氏の起用を見送ったというのが真相でしょうが、小林の声を聞く機会を失った我々の損失は大きい。小林秀雄は新潮社の新注全集では新字体、現代仮名遣いに改竄してある事にお怒りだと思ふ。これだけは許せないと仰るに違いない。

遠藤周作は生前、佐藤愛子に「死後の世界があれば『あった！』と幽霊になって教えに出てきてやるから」と、一方的に約束したそうです。

遠藤さんが亡くなった翌平成九年五月中旬、佐藤さんは江原啓之さんと電話で長話の途中に江原さんが会話を打ち切り、遠藤周作が佐藤さんの部屋を茶色の着物姿で訪れ、書きかけの原稿を人指し指で下の方も持ち上げてニヤニヤと見ながら話したのが江原さん

には見え、遠藤周作の言葉を佐藤さんに伝えていきます。

「死後の世界はあった、こっちの世界はだいたい、君がいった通りだ。作家というものはみな怠け者だから、こうして時々見回りしなければならぬんだ……この前も見てたら、佐藤くんは机に向かったままじーっと動かない。そんなに行き詰まっているのかと思つてそばへ寄つてよく見たら、居眠りしとつた……」遠藤さんは幽界の一番高い所にまで行き、「ぼくの人格が高いから真つ直ぐにここへ来た。人の役に立ってきたからなあ。沢山の寄付もしたし……」

その後一、二度遠藤さんは現れ、「こうしているのも今のうちだ。仕事が待っている」どんな仕事かと問うと、「世直しの手伝い」と言った。別のとき、この国の先行きについて訊ねると返事は「国のことよりも自分のことだ」私のははつとした。急所をグサリと突かれた思いだった。そうだった、大切なことは人、一人一人が自分の波動を上げることだった。（略）一人一人の波動の高まりが優れた政治家を生み出すのだ。

以上佐藤愛子著「私の遺言」より引用しました。遠藤周作の言葉、国のことよりも自分のことだ。深い言葉です。

三月五日

先週の朝まで生テレビの題は「皇室につい

て」でした。司会の田原総一郎はテーマを次々と移動するので議論が纏まらず、私は欲求不満でした。あれでは井戸端会議に過ぎないと遅くまで付き合ったのに時間の無駄でした。中盤で憲法と天皇制は矛盾しないのかと田原がテーマを振ったのですが数分で別のテーマに移動して仕舞いました。憲法と天皇制は矛盾しないのか。このテーマ一本で討論するぐらいの気概で番組制作を願いたいものです。憲法改正と皇室典範改正とは密接な繋がりが有る筈と言うより、有るのでそこを考慮しての改正を考えたいものです。憲法と皇室典範を同時に考えると民衆は余計に混乱するとの意見が出たならば、福田先生が三島との対談で述べられた如く、一度、明治の欽定憲法に戻せば良いのです。

二月五日

ライブドア事件についての感想を書こうと思いつつ何も無くて今日に至りました。堀江貴文逮捕との報に、内心で喝采を叫んだので、彼への嫌悪感を自覚しました。人間活動において公益性や公共性を認識、自覚しない行動には興味が有りません。ゆえに、この事件から何も得るものが無い気がします。かつてのオウムがそうであった様に「ガキの集団」を監視しておかないと暴走するという教訓のみであります。

それよりも耐震建築偽装問題の方が重大です。

耐震偽装問題の罪状は未必の故意での大量殺人未遂です。阪神淡路大震災で建築物の崩壊にヒントを得たのでしよう。すなわち大震災が起これば耐震偽装を追求される余裕の無い大混乱に陥り完全犯罪になると計画したのでしよう。大震災を隠れ蓑にしようとする事業は絶対に見逃せない前代未聞の犯罪計画では無いでしょうか。

刑罰が一般に軽過ぎます。モラルが喪失して刑罰の軽い社会は人間性の崩壊した社会になります。モラルの確立と終身刑を設ける必要に迫られているのではないのでしょうか。モラルの確立の気運が生じて来るのを待つのか、仕掛けて行くべきなのか分かりませんが、人間には期待しないのが賢明なのでしよう。

平成十八年

一月一日

明けまして御目出度うございます。元旦は曇り空で年が明けました。

昨年終盤発覚した建築設計偽造と中韓媚態外交、西村議員逮捕それぞれの裏で蠢いているのが与党内の売国勢力であるのは明白です。その上、今年は今内閣が皇室典範の改悪案を国会に提出する予定ですのでわが国に行く末は曇天が続くのでしょうか。

憲法を今更改正したとて何になるのか、それより公明党と創価学会の関係が現行憲法の政教分離に抵触しているのは明確なのに放置しているのは政治的決着というものなのか。

自民党が大勝したいま、公明党と清算しなければ弱みを握られた犯罪者のように、選挙協力し続けなければならぬであろう。

権力に逆らえば西村眞悟議員のようにこじつけ逮捕される暗黒の時代が来るのであろうか。立ち小便や銜え煙草で歩いても逮捕される事態になるのであろうか。小泉政治に歯止めを掛けなければなりません。

九月の衆議院選挙で自民大勝の翌日からとたんに厚木基地での米軍機は離発着時に大騒音を連日撒き散らしました。大騒音に誰も抗議しなかったようです。二週間ちかく我慢の末、防衛庁に抗議しました。その三日後騒音が収まったのは抗議の成果なのか偶然なのか解りませんがとにかくわが国は米国に舐められ続けていると体感しました。

パソコンとディスプレイ接続の説明を追加致します。パソコン本体にビデオカードが必要です。ビデオカードのビデオコントローラにデジタル外部モニタ出力ポートが装備してあるのが条件です。以上の条件はパソコンメーカーにデジタル接続の旨を問い合わせれば簡単に答えてくれます。

ディスプレイの選択は仕様書にビデオ信号がデジタル RGB がある事。信号入力コネクターが DVI-D と記入してあればデジタル接続出来ます。最近の製品ならケーブルも付いてお

り使えるでしょう。国内メーカーなら三年保証も付いています。求め易いと思われるパソコン工房とPCサクセスにリンクを貼っておきます、セール時は十九型液晶で二万円を少し超える金額でした。解説のページもリンクしておきますのでテキスト版のページから入り下さい。

十二月十九日

パソコンのデジタル接続は購入時に計画しておけば案外安く導入できます。私は、パソコンはエプソン製 AT955・ペンTEAM4でディスプレイは液晶十五型をネット通販で購入しました。合計金額十一万でした。メモリーデュアルチャンネルは威力を發揮します。これらの情報はネットの価格コムで得ました。

十四日水曜日は国会で証人喚問が行われテレビ中継のチャンネルに一度は合わせたのですが別のトーク番組に劇団「昴」の藤木孝さんが出ておられたので拝見しました。心に残る一言、として藤木さんは福田先生の言葉を紹介しておられました。四十年近く前「億万長者夫人」の稽古中「あー山が見える」この科白が上手く言えずに十回程繰り返した時、先生の「それが最低だな・・・」の一言に恐ろしくて縮み上がったと話されました。情景が眼に浮びそうで、なかなか感じのある話です。藤木さんもさりげなく来年の宣伝をされ

る点は芸が細かいと感心しました。

来年の劇団「昴」公演は記念プログラムとして 福田訳で二本を上演、三月に「チャリング・クロス街八十四番地」十月「夏の夜の夢」創作劇で六月「億萬長者夫人」が予定されているようです。三百人劇場は老朽化の為来年で閉館になるようですが、劇団「昴」のさらなる発展を心より願っております。

十二月十一日

パソコンのディスプレイを凝視すると眼が疲れて困ると愚痴をまえに述べました。眼精疲労を緩和させる為にパソコンとディスプレイを結ぶケーブルを前はアナログ接続だったのをデジタル接続にしました。画面のチラツキとにじみが消えて眼精疲労が軽減しました。

パソコンは元来デジタル仕様なのに接続部分のアナログ仕様とは矛盾しています。この矛盾の原因はパソコン制作費の削減と相場は決まっているようですがユーザーに無用な苦痛を与えても痛痒を感じないメーカーの姿勢は利益優先主義と言う精神病の氾濫を意味しております。

利益優先主義などと勿体ぶった物言いをするものも不愉快ですが、かつて、命よりも大切なものが有ると叫んで自殺した作家がいました。現代人は金銭よりも大切なものを見失った振りをしているのでは無いか、人間としての矜持を持たない、持てない振りをしてい

るのでは無いか、余りある羞恥心ゆえのポーズとしての利益優先主義であると判断したいものです。

デジタル接続の方法はパソコンに DVI ビデオカード、DVI モニター、DVI プラグがそれぞれ必要です。NEC と富士通の製品にもコネクタで使えるようですが二種類あります。なにしろ接続が複雑ですので (DVI 接続) で検索してお調べ下さい。

十一月二十七日

自己規制ばかりしては更新出来ませんので思いついたままを暫くは書き込むと致します。

タレントの美輪明宏が三島の理解者だそう  
で昨夜のテレビで三島は本物だとか天才だとか述べていたので気分が悪くなってスイッチを切って仕舞いました。美輪さんに関しては今後、大げさな程褒めあげるでしょうが、それは歌手として、霊能者として褒めるのであって、役者や文化人として評価するものではないしてありません。昨夜の番組では三島は辞書を一等愛読していたようです。広辞苑では「俗」の反対語を「雅」と載っています。三島も広辞苑を鵜呑みにしたのか、俗の反対語を雅びとする人間観で小説や文学論を書いていました。

かつて福田先生に話を伺った際に、三島にとって俗の反対語は雅びのようです。と、私

が述べました。先生は「俗の反対は粹です」  
そこで粹について詳しく伺ったものでした。  
この話題の最後に先生は、辞書を信用しては  
駄目ですよ。端然と話されました。

三島の公開日記「裸体と衣装」から昭和三十三年八月十六日付から引用します。

久々の快晴で暑い。福田氏の家族と一緒にプールで遊ぶ。妻とビーチ・パラソルの下にゐて海を眺めてみると、砂浜の斜面をふしぎな人が近づいて来る。黒い絹の着物に角帯を締め、なよなよと、銀の扇をひらいてかざしながら、足もとおぼつかなく砂の斜面をのぼつて来るが、サン・グラスの下の唇は大そう丹い。海水浴の裸ん坊ばかりの中で、その姿は異色といふも愚かである。いよいよこちらへ近づいて来て挨拶するので誰かと思つたら、たまたまここで行われるテレビ放送へ出演するために来てゐる丸山明宏君であつた。

福田先生、三島、美輪明宏と三者の場面はこれぐらいであろうから引用しました。

十月二十七日

この人物の言動を精察したくも無いのですが、この愚男は公人中の公人なので述べますが、この前の靖国神社参拝で参道の中央（まんなか）を歩いていたのは英霊に対して失礼です。参道の中央は神。靖国神社では英霊が通られ

る場所で、人間共は参道の脇を通るものです。神道神社に参れば、二礼二拍一礼をせず参るのはこれまた英霊（神）への冒瀆だと因縁を付けられても仕方ありません。敗戦記念日の靖国参拝を総裁選の公約として挙げている程だから以上のマナー違反は確信的なものでしょう。中国や韓国へ「私は、心ならずも参拝していますよ」との弁解じみた所作なのでしよう。

小泉は単なる選挙好きの政治屋でしか過ぎないのは明白です。中国が台湾を軍事攻撃すれば、わが国はいかに対処するのか、それが問題だ。

今年もあと二カ月、光陰矢の如しを実感します。私事ですが、三十年前のこの日が一番幸せな日でありました。

十月六日

またも衆議院で郵政民営化法案が審議入りしたようです。

解散前にもこの法案は審議され、衆参の予算委員会で討議されました。予算委員会で政府首脳は徹底的に野党に追い詰められて答弁に四苦八苦、返答に窮し、立ち往生もすればしの醜態を演じたのでした。あのととき、野党が本気で郵政法案を廃案に追い込むつもりならば廃案になったでしょう。法案は杜撰で貧弱なものでした。なぜ野党は「答弁になっただけでないので廃案」と、強行に出なかつたのでしょうか。

自民党の国会対策が有能で且つ、資金が潤沢にゆきわたったのでしようが出来レースの感  
は否めません。

予算委員会での与党のもたつきぶりをテレビで再放送すれば選挙結果は違ったであろう。野党はこれをなぜ利用しなかったのか。テレビでなくても国会中継をインターネットで見ることが出来るので、与党がいかに無能であるかを喧伝する機会であった。

今回の選挙で反小泉で戦い、破れていった元議員達は権力に逆らった、世渡り下手な人達であるのか。社会の落伍者なのか。当選はしたが亀井静香議員は自民党での自派閥が消滅してしまった。「長いものには巻かれろ」式の風潮が流れているのには暗然たる心持ちになります。奢れる権力者の末路が悲惨であるのは必定であります。